

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

いつ来ても幸せ色の睡蓮花

児玉 典子

池濁し向きを変へゆく鯉涼し

西村 セツ

花に止まり草に沈むや蝶二つ

本浦 玲子

大陽俳句会

菜園の天地返しや夏隣

鍋山 美智子

小雨降る朝の繰り戸や鳴く蛙

岩重 みどり

くちなしの花びら揺らす雨雫

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

陸自のへり原型はなく海の底

人為の怪か御霊は還らじ

大森 巳喜生

コロナ禍の最中もらひしサクララン

蕾ついたり薫風あびて

平田 美穂子

ボヘミアンのところ頭ちくる陋屋に

棲みてときおり寝場所を変える

泊 康

大陽短歌会

小綬鶏の親子を久しく見ざるなり

「チヨットコイも一度来ーい」

西山 美代子

「コロナ」ゆえ親子も距離を取りおりしが

今日は集える「カンパイ」の膳

安藤 フヂ子

嬉し事友の健やかなるに逢い

昔語りをほつほつなししよ

川辺 敦子

財部短歌会

連休に間に合うはずの苺畑

雉子の番が首をかしげる

永岡 冴子

苗ゆらり歌友にもらいしセンリヨウの

移植終へたる五月の庭に

脇丸 洋子

薩摩狂句

ながい会末吉支部

長寿友達 久しか振り旅行

よか気張い 浜田 一好

ツアー旅行 一日限いの

友達けなつ 古川 一幹

焼酎豆腐 友達が持つ立て

雪花菜添え 胡摩ヶ野 べぶまつ

友達の集い 話題しや病んめで

盛りあがっ 桐野 奈世